

Slovenia Monthly July 2021

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2021年8月24日



～7月の主なポイント～

- 内 政： 水域法の改正案が国民投票で否決
アンドリヤニッチ・デジタル化担当大臣が就任
- 外 政： EU財務相理事会、スロベニアの復興・強靱化計画を承認
- 経 済： 国民議会、観光刺激パッケージを可決
- コロナ： 自主隔離及びPCR検査による陰性証明書等が免除される特例の追加
- スポーツ：スロベニア男子バスケットボールチーム、五輪初出場へ

政治

【内政】

●水域法の改正案が国民投票で否決【11日】

11日、海岸及び河岸の建物の建設等を自由化させるとして環境NGOから批判されていた水域法(the Waters Act)の改正案を巡り、スロベニアの有権者は国民投票で投票者の86%以上が反対票を投じ、同改正案を否決した。投票率は約46%で、2007年以来の国民投票で最高の投票率を記録した。野党は同結果を受け、政府が辞任する必要があると述べたが、ヤンシャ首相はこれを否定した。



(Photo: Nebojša Tejić/ STA)

●国民議会、2050年までの気候戦略を採択【13日】

13日、国民議会は、スロベニアが今後30年間で気候中立(Climate Neutral)になることを誓約する2050年までの気候戦略を採択した。同戦略には、スロベニアが長期的に原子力エネルギーを使用するという条項が追加された。長期戦略の下で、スロベニアは21世紀半ばまでに、2005年と比較して温室効果ガス排出量を80-90%削減する。

●憲法裁判所の候補者クランツ氏の任命、1票足らず否決【13日】

13日、国民議会は、パホル大統領が推薦した憲法裁判所裁判官の候補者であるヤネス・クランツ氏の任命を拒否した。クランツ氏は投票で45票を獲得したが、43人の議員が反対票を投じ、1票が無効だったため、必要な過半数を1票下回った。任命の失敗により、2020年半ばに9年の任期を満了したドウニャ・ヤデク・ペンサ氏が、後継者が任命されるまで同ポストにとどまることとなる。

●アンドリヤニッチ氏、デジタル・トランスフォーメーション担当大臣に任命【16日】

16日、ウーバー（Uber）元幹部のマルク・ボリス・アンドリヤニッチ氏が、スロベニア社会のデジタル化を促進するため、国民議会の投票（賛成45、反対44）により、デジタル・トランスフォーメーション担当の無任所大臣に任命された。アンドリヤニッチ氏は、デジタル化が国家の優先事項となり、スロベニアの社会と政治を統合するプロジェクトになるために働くことを誓約した。アンドリヤニッチ氏は、行政、保健、教育、ビジネスの分野において、デジタル化戦略理事会によって提案された40のソリューションをできるだけ多く実行に移すことが優先事項であるとした。



アンドリヤニッチ・デジタルトランスフォーメーション担当大臣(Photo: Tamino Petelinšek/STA)

●国民議会、夏の休会へ【16日】

16日、国民議会は夏休みに入り、緊急セッションの可能性を除いて、原則として9月まで再び会合することはない。議会の手続規則に基づき、7月16日から8月31日までの夏休みの間、本会議と議会の作業部会の定期的な会合は中断される。

●経済：クルシュコ原子力発電所の第2ユニットにエネルギー許可が発行【19日】

19日、インフラ省は、クルシュコ原子力発電所の第2ユニットの建設許可を発行した。ヴルトヴェツ・インフラ大臣は、「エネルギー許可は、専門家レベルだけでなく、一般の人々の間でも、幅広い議論を開始する」と記者に語り、これは第2ユニットの最終決定を示すものではなく、単に最初のステップであると付け加えた。特定の施設の建設には、詳細な建設計画を準備する前にエネルギー許可を取得する必要がある。同プロジェクトは国営の「GenEnergija」によって管理されることになるが、同プロジェクトの見積もり価格、タイムフレーム、採用される技術などの詳細はまだ分かっていない。

●エルベジュニク法務省副大臣が辞任【20日】

20日、エルベジュニク法務副大臣は、就任後1か月も経たないうちに辞任した。2名の欧州委任検察官の任命を政府が拒否した問題を理由にコズロビッチ前法務大臣が辞任し、その後任のディカウチッチ現法務大臣就任の1週間後の6月22日にエルベジュニク副大臣を指名していた。ディカウチッチ大臣は、「ポートフォリオの管理と副大臣の役割についての見解が異なる」ため、エルベジュニク副大臣は辞任したとSTAに語った。



エルベジュニク法務省前副大臣(Photo: Nebojša Tejić/ STA)

【外政】

●パホル大統領、西バルカンへの迅速なEU拡大を主張【2日】

2日、ボルト・パホル大統領は、北マケドニアが主催する国家間の関係強化等のためのフォーラムであるプレスパ・フォーラム対話(the Prespa Forum Dialogue)した。パホル大統領は、西バルカン地域の安定と繁栄に不可欠であるEUとNATOのさらなる拡大の重要性を強調し、同地域への西バルカンへの迅速なEU拡大を主張した。また、パホル大統領はEU拡大を「第一の地政学的問題」とし、西バルカンへのEU拡大がなければ、EUの平和のためのプロジェクトは未完であると述べた。



(Photo: President's office)

●サツォーリ欧州議会議長、スロベニアはEUの価値観及び法の支配を守るべきと主張【2日】

2日、サツォーリ欧州議会議長は、スロベニアはEUの価値観と法の支配を擁護する重大な責任を負っていると述べた。サツォーリ欧州議会議長は、「スロベニアの国民はヨーロッパの価値と自由についてよく理解している。欧州検察庁(EPPO)発足に係る欧州委任検察官をスロベニアが任命することは、透明性を確保し、法的権利を守る方法である。我々は迅速な対応を期待している」とツイッターで言及した。1日、スロベニアは、欧州委員の訪問によりEU議長国として正式に就任し、法の支配は、スロベニア政府と欧州委員会の会談における主要な議題の1つだった。

●ヤンシャ首相、EUのより戦略的な行動の必要性を主張【6日】

6日、ヤンシャ首相は、欧州議会で演説した際、西バルカン諸国を含め、EUがより戦略的に行動を開始する時が来たと述べた。ヤンシャ首相は、スロベニアのEU議長国の優先事項を提示し、最初の短期的な優先事項は、パンデミックの第4波を防ぐためにあらゆる措置を行うことであると述べたほか、人々にワクチン接種を受けるよう説得することが重要だとした。

一方、フォン・デア・ライエン欧州委員会委員長は、共通の価値と法の支配の役割も重要性を強調した。

●ヤンシャ首相、北マケドニアとアルバニアへのEU拡大の重要性を強調【6日】

ヤネス・ヤンシャ首相は、スロベニアのEU議長国の優先事項を欧州議会に提示した際に、北マケドニアおよびアルバニアとのEU加盟交渉の開始を可能にするために前進することの重要性を強調した。ヤンシャ首相は、10月にスロベニアで開催されるEU・西バルカンサミットに先立ち、北マケドニアとアルバニアに関して具体的な措置が講じられる可能性があると考えており、EUがこの同地域に拡大しない場合、地域の安定に貢献しないと述べた。

●欧州議員、ヤンシャ首相に法の支配に関する厳しいメッセージを伝える【6日】

6日、欧州議会の多くの政党の欧州議員は、スロベニアのEU議長国の優先事項が議会で提示された後、法の支配について厳しいメッセージをヤンシャ首相に送った。欧州議員からの批判の多くは、スロベニアが欧州委任検察官を任命していないこと、報道の自由及び司法の独立の問題に集中したが、気候変動問題に取り組む野心の欠如についても指摘された。欧州人民党(EPP)も、2人の欧州委任検察官を迅速に任命するようヤンシャ首相に促した。



(Photo: Mathieu Cugnot/European Parliament)

●スロベニア、COVAXイニシアチブに50万ユーロを支援【7日】

7日、スロベニアは、今年から来年にかけて、新型コロナウイルス感染症ワクチンへの公平なアクセスを目的とした世界的なイニシアチブであるCOVAXに50万ユーロを支援することを決定した。加えて、エジプトに25万回分のアストラゼナカワクチンを供与する。

●駐イラン・スロベニア大使、ヤンシャ首相の発言により召喚【11日】

11日、イラン外務省は、1988年のイランにおける3万人の政治犯の虐殺についての調査を求めるヤンシャ首相の呼びかけについて、ラデイ駐イラン・スロベニア大使を召喚した。イラン政府は、イラン人のディアスポラが主催する毎年恒例のグローバルイベントである「自由イラン世界サミット（Free Iran World Summit）」におけるヤンシャ首相のビデオ演説について、スロベニア政府に説明を求め、同会議を「テロリストグループ」のオンライン会議と表現した。

●法の支配報告書、検察官非任命及びメディアの状況に警鐘を鳴らす【20日】

20日、欧州委員会は、第2次法の支配報告書で、スロベニアの国家検察官と2名の欧州任命検察官の任命の遅滞、およびメディアの自由と多元主義の悪化について懸念を表明した。ヨウロバー欧州委員会副委員長（価値及び透明性担当）とレンデルス委員（司法担当）は、スロベニア当局に対し、STAの安定した資金調達を確保するよう求めた。レンデルス委員は、欧州委任検察官の非任命に対するあり得べき措置が秋に講じられることを指摘した。スロベニア出身のレナルチッチ欧州委員は、欧州委員会はスロベニアの法の支配について深刻な懸念を抱いていると述べた。

●EU財務相理事会、スロベニアの復興・強靱化計画を承認【26日】

26日、EU財務相理事会は、欧州委員会が今月初めに承認したスロベニアを含む4カ国の復興・強靱化計画を承認した。書面により正式な承認がまもなくなされる。シルツェル・スロベニア財務大臣は、遅くとも9月に25億ユーロの計画の内2億3100万ユーロを取得する予定と述べた。

経済

●欧州委員会、スロベニアの2021年のGDP成長率を5.7%と予測【7日】

7日、欧州委員会は、スロベニア経済が本年5月の予測から0.8ポイント増加し、5.7%成長すると予測した。2020年の成長率は5%に下がった。ユーロ圏全体では、それぞれ4.8%と4.5%の成長率を記録すると予想されている。欧州委員会は、スロベニアの回復は、個人消費、投資、輸出の増加によって支えられており、商品の輸出はすでにコロナ危機前の水準にあると述べた。

●国民議会、観光刺激パッケージを可決【7日】

7日、国民議会は、新型コロナウイルス感染症流行の影響を最も受けた観光業やその他のセクターを支援するために、2億4,350万ユーロ相当の緊急法案を可決した。この法律には観光業、コンベンション産業、レストラン、スポーツ関連企業、文化関連の企業を支援するための一連の措置を含む。また、宿泊施設、レストラン、書店、劇場、コンサート、スポーツやその他の活動を含む幅広いサービスのために、新しい休日用クーポンが導入された。同パッケージに対して、スロベニア最大の商工会議所（GZS）は、企業が提案し、より幅広い内容を含んだ措置はパッケージに含まれておらず、観光のための刺激策は期待に届いていないと批判した。



(Photo: Nebojša Tejić/ STA)

●スロベニア・デジタルセンターが開所【9日】

9日、リュブリャナ市内の商業施設BTCにおいて、ビジネス及びスロベニア社会のデジタル化を促進するための施設であるスロベニア・デジタルセンターの開所式が執り行われた。同センターには日本、スロバキア、フランス、ハンガリー、オーストリアからビジネスミッションが派遣される予定。

同センターは、経済開発・技術省、デジタル・イノベーション・ハブ・スロベニア（Digital Innovation Hub

Slovenia)、投資促進庁(SPIRIT)、及びBTCによって、ビジネスとスロベニア社会のデジタル化、スロベニア企業と他の組織間の協力の促進、及びスロベニアのEU議長国期間中にこれらの取り組みを海外へ宣伝するために設立された。

EU議長国期間中の6ヶ月間、月毎にテーマが設定(7月:スマートシティとスマートコミュニティ、8月:持続可能な社会と経済、9月:人工知能、10月:5Gとサイバーセキュリティ、11月、デジタル・トランスフォーメーション、12月:インダストリー4.0とロボティクス)され、設定されたテーマの中で高度なグリーン及びデジタルソリューションに取り組んでいる企業によるプレゼンテーションが週毎に設けられる。



スロベニア・デジタルセンター開所式(Photo: Nebojša Tejić/ STA)

治安・軍事

●スロベニア警察、観光シーズンのために3名の警察官をクロアチアに派遣【22日】

22日、スロベニア警察は、例年どおり、夏の観光シーズン期間(7月17日~8月18日)、スロベニア市民がクロアチアで巻き込まれた事件を処理するのを支援するため、3名の警察官をクロアチアに派遣したと発表した。

クロアチア警察は2006年から、夏の観光シーズンに向けて、クロアチアを訪れる外国人観光客の割合が高い国の警察官を受け入れている。今年は、15カ国から68名の警察官がクロアチアに派遣される予定。スロベニアの警察官は、2011年からクロアチアの警察官と協力している。

●スロベニアとイタリア、国境での合同パトロールを再開【30日】

30日、スロベニアとイタリアの警察は、バルカン半島からの不法移民を防ぐために国境の共同パトロールを再開したとスロベニアの警察は発表した。共同パトロールは、新型コロナウイルス拡大のため、1年以上前に中断されていた。現在、警察官は無人航空機の使用も許可されている。

新型コロナウイルス関連情報

●7月31日時点におけるスロベニア国内の新型コロナウイルスの感染状況【31日】

7月31日時点において、スロベニア国内で新型コロナウイルスへの感染が確認されている人数は累計259,272名で、死者は計4,763名となっている。31日時点での地域別の累計感染者は以下となっている。

地域	感染者数
スロベニア中心部	63,968
ドレンスカ・ベラクライナ地方	20,047
サヴィンスカ地方	34,272
ポドラウスカ地方	38,669
ゴレンスカ地方	27,152
ポムルスカ地方	16,037
オバルノ・クラシュカ地方	11,596
ゴリシュカ地方	12,666
コロシュカ地方	9,655
プリモルスコ・ノトランスカ地方	6,268
ポサウスカ地方	10,138
ザサウスカ地方	7,020

●自主隔離及びPCR検査による陰性証明書等が免除される特例の追加【22日、23日】

7月22日および23日、スロベニア政府は、国内制限措置の追加、および、入国制限に係る措置の内、自主隔離及びPCR検査による陰性証明書等が免除される特例の追加を発表しました。スロベニアの国内制限措置に関する政令が改正され、すべての公のイベントや集会において、主催者が参加する者に対するワクチン接種証明書等の確認を行うことを義務付けることとなりました。これにより、当該参加者は、会場入場時にワクチン接種証明書、PCR検査(72時間以内)または簡易抗原検査(48時間以内)による陰性証明書、新型コロナウイルス感染症からの回復証明書のいずれかの所持が求められます。

●EU デジタル証明書を確認するためのアプリの導入【30日】

国立公衆衛生研究所(NIJZ)は、EU デジタル証明書をチェックするための新しいモバイルアプリがイベント主催者とサービス提供者に対して利用可能であると発表した。同アプリは、EU デジタル証明書のQRコードをスキャンし、個人情報や健康情報にアクセスすることなく、ワクチン接種証明書を確認することができる。

社会・文化・スポーツ

●ガンブレット選手、オリンピックの前にワールドカップでの勝利【4日】

クライミング、スロベニアのヤンヤガンブレットは、スイスで開催されたクライミングワールドカップで優勝し、東京オリンピックへの期待を高めている。本大会では、ファイナリスト8人のうち、4人はスロベニア人でした。

●スロベニア男子バスケットボールチーム、五輪初出場へ【4日】

東京五輪最後の4つの出場枠をかけた最終予選の決勝戦が各国で開催され、NBAスターのルカ・ドンチッチ選手擁するスロベニア男子バスケットボール代表チームが五輪初出場を決めた。東京五輪では、スロベニアはスペイン、アルゼンチン、日本と並んでグループCで予選を戦う。ドンチッチ選手は「この国が初めて、オリンピックに行けるんだ。最高の気分」とコメントした。

●この6月までに昨年全体よりも多くのクマが捕獲される【8日】

スロベニア当局は、1月から6月にかけて、昨年の同時期と比較して、クマによる被害が多く、オオカミによる被害が少なかったと公表した。被害総額は昨年に比べ少なかった。この期間に合計128頭のクマが捕獲され、2020年全体の合計99頭から大幅に増加した。本年6月までに、当局はヒグマによる120例の被害と、オオカミによる80件の被害を処理した。被害総額は90,000ユーロ弱と推定されている。

●ツール・ド・フランス連続優勝【18日】

スロベニアのタディ・ポガチャル選手(22歳)は、第108回ツール・ド・フランスで優勝し、世界で最も権威のあるサイクリングレースにおける最年少のダブルウィナーとなり、連続優勝を決めた9人目の選手となった。彼は、昨年に引き続き、最年少選手に贈られる新人賞を意味するマイヨ・ブラン(白ジャージ)と山岳賞を意味するマイヨ・アポワ(水玉ジャージ)の双方をも獲得した。

●スロベニアのテニスプレーヤー、レディース・オープンでの初優勝【18日】

テニス「レディース・オープン・ローザンヌ」(スイス・ローザンヌ/WT A250)で、タマラ・ジダンシェク選手が、ツアー3度目の決勝にして初タイトルを獲得。ランキングもキャリアハイの37位へ上昇した。

●**齧歯類媒介出血熱は減少傾向だが、次は野兔病感染症が確認された【21日】**

マウスの数の増加によって引き起こされた、プリモルスカ北部での腎症候群を伴うげっ歯類媒介性出血熱(HFRS)の流行は減速し始めている。他方で、別の感染症が西部の同じ地域に広がっている。野兔病(ウサギ熱)の17例がこれまでに確認されている、とノヴァ・ゴリツィアの国立公衆衛生研究所(NIJZ)地域ユニットは発表した。この地域で何十年も報告されていない希な感染症の発生は、おそらく小さな民間の水源に起因していると考えられるという。

●**スロベニアの研究が微生物叢(マイクロバイオーム)に新たな光を当てる【22日】**

スロベニアの研究者チームは、病気の存在を示す可能性のある、特定の経路を検出するための、人間の腸に住む微生物叢(マイクロバイオーム)の状態を分析するのに役立つソフトウェアを作成したを発表した。この発見は、新しい個別化医療療法の開発の機会を生み出す可能性を秘めている。論文は、ジャーナル Metabolites(<https://www.mdpi.com/2218-1989/11/6/336>)に掲載された。

オリンピック記念銀貨の発行

スロベニア・オリンピック委員会は、東京五輪大会の記念銀貨を発行、5月19日に行われたスロベニア・オリンピック教育センターの開所式において、デザイン等が発表された。

銀貨のデザイン、制作等を手がけたのは、スロベニア・オリンピック委員会の新たなスポンサーであるElementum社。本記念銀貨の収益の一部はミロスラウ・ツェラル基金に寄付され、社会的に不利な立場にある若いアスリートを支援するために活用される。



オリンピック記念銀貨

デザインには、オリンピックおよびスロベニア・オリンピック委員会のロゴをバックに、1964年に東京で開催されたオリンピック大会に於いて鞍馬で金メダルを獲得したミロスラウ・ツェラル氏の演技中のイメージが表に採用されている。大きさは直径37ミリメートルで、重さは15グラムで、99%が銀で作られている。素材である銀は、東京五輪メダル同様に、リサイクルによって集められた銀が使用されている。

デザインに起用された鞍馬に乗るツェラル氏は、1958年から1970年の間に、主要な大会で30個のメダルを獲得（そのうち2つはオリンピック、4つは世界大会で、10は欧州選手権で獲得）した、伝説のアスリートとして当国では広く知られている。スポーツの分野での多大な貢献と体操での卓越した業績に対する国際オリンピック委員会の最高の評価（L'ordre Olympique）を受け、スロベニア・オリンピック委員会とスロベニアオリンピックアカデミーを創設、スポーツ・寛容・フェアプレー大使として当国では大きな役割を担い、社会的に不利な立場にある若いアスリートを支

援する基金の会長も務めるツェラル氏のスロベニアにおける役割は非常に大きいと考えられている。

本銀貨にはシリアルナンバーがついており、スロベニア・オリンピック教育センターの開所式に於いて、シリアルナンバー1の銀貨が、ツェラル氏に手渡された。



松島大使とツェラル氏

Elementumのペテル・スラプシェク代表取締役は記念銀貨の発行に当たり、Elementum社は「スロベニアのスポーツの伝説であるツェラル氏と仕事をする機会があったことを非常に誇りに思います。スロベニアのオリンピック委員会のブロンズパートナーとして、特に若いアスリートを教育することの重要性を認識しています。記念銀貨の発行を通じて、彼らの可能性を最大限に発揮し、スポーツキャリアへの移行を成功させる機会を提供したいと考えている。」と述べた。

スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282、Fax: +386-1-251-1822、Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website.jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当てて、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧ください。

http://www.si.emb-japan.go.jp/Living_in_Japan.html

【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、在留届を提出してください。(※インターネットで提出をされると、変更届・帰国届けもオンラインで手続きできるため、たいへん便利です。)

緊急事態発生時には、提出された在留届をもとに、大使館・総領事館が、安否確認・支援活動等を行います。

【外務省オンライン在留届】: <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>

●新型コロナウイルス: 引き続き最新情報を入手し、感染予防に努めてください。当館HPでは、新型コロナウイルスに関する国内及び出入国規制等についてまとめたものを公開していますのでそちらもご覧ください。なお、規制は突然変更となる場合がありますので、最新情報についてはスロベニア当局にご確認いただくようお願いいたします。

【当館まとめページ】https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00037.html

【参考情報】

1. 外務省海外安全ホームページ

本サイトでは、各国・地域での新型コロナウイルスの発生状況、新型コロナウイルス(日本からの渡航者・日本人に対する各国・地域の入国制限措置及び入国・入域後の行動制限)等の情報を掲載しています。

<https://www.anzen.mofa.go.jp/>

2. たびレジ簡易登録

本サービスは、メールアドレスとメール配信を希望する国・地域を選択するだけで、当該在外公館から領事メールを受信することができます。ぜひご活用下さい。

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/simple/register>

3. スロベニア国立公衆衛生局は、国内状況や感染予防の方法等について公開しています。

<https://www.nijz.si>

(主にスロベニア語)

4. スロベニア政府が、新型コロナウイルスに関する特設サイトを開設しました。コロナウイルスに関連した保健省の特設電話番号はこちらに掲載されています。

<https://www.gov.si/en/topics/coronavirus-disease-covid-19/>

5. 新型コロナウイルス感染症に備えて ～一人ひとりができる対策を知っておこう～(首相官邸)

<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansensho/coronavirus.html>

6. 新型コロナウイルス感染症に関する情報について(厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

7. リュブリャナ空港ホームページ

<https://www.fraport-slovenija.si/en/Main>

8. スロベニア政府の下記のツイッターアカウント等で、随時情報発信が行われておりますので、こちらをご確認ください。

●政府(英語): <https://twitter.com/govslovenia>

●政府(スロベニア語): <https://twitter.com/vladars>
(英語版と若干内容が異なります。)

●外務省: <https://twitter.com/mzzrs>

(主にスロベニア語)

●保健省: <https://twitter.com/minzdravje>

(主にスロベニア語)

【広報文化班からのお知らせ】

●最新情報は、当館フェイスブックでチェック！

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia/>